

《公立公的病院等再編・統合阻止》

2022年5月16日

424 愛知共同行動 通信

NO. 189

発行：「424 愛知共同行動」事務局 愛知社保協地域医療委員会

(文責：長尾・☎052-871-7856)

コロナ禍で問われる憲法と暮らし。
みんなで学び、交流しましょう！

第48回 東海自治体学校

「区民・職員とともに築いた区政11年、
参加と協働のまちづくりの展望」

記念講演 保坂 展人 さん（東京都世田谷区長）

第48回東海自治体学校実行委員会 2022年5月15日(日) 労働会館



◎保坂さん—世田谷区長

行政の仕事は、区民にとってメリットとなっているかどうか？が判断基準であり、計画段階から区民、当事者の意見を聞き反映させていく事が、住民参加につながる。行政の政策立案を1ミリも変えないという姿勢ではなく、討論によって変わっていく事がより良いものを作り上げるとともに、区役所職員にとっても大きなやりがいへつながっている！区政11年間で「自然エネルギー政策」「被災地支援とグリーンインフラ」「参加と協働を掲げる熟議デモクラシー」「街づくりセンター」「子ども・子育て応援」「教育改革」「若者支援」「コロナ過と向き合う」などに取り組んできた。従来、職員を減らしたり、サービスを低下させることが「行政改革」とされてきたが、箱物の更新などは莫大な予算が必要となり、それを如何に少ない予算で更新築していくかに知恵を絞る方が、よほど行政改革につながる！また、新時代に向けたデジタル改革は、「デジタルデモクラシー」の視点で進め、区民へ時間を返していく取り組み。



◎午後「公立・公的病院の役割と地域医療のあり方分科会」13時～16時半

全体21名参加=会場9名+ZOOM12名 運営を「424 愛知共同行動」事務局が協力して行いました。

①基調報告（「424 愛知共同行動」事務局長—長尾）



- ・コロナの現状と公立・公的病院の果たしてきた役割
- ・「地域医療構想」と「必要病床」
～コロナ禍の中でも病院の病床削減は水面下で進んできた。
 - ・病床削減を推進する「基金」（補助金）の役割が大きく、補助金を目当てに病床削減が進んでいる。
 - ・新たな「第8次医療計画」と「公立病院経営強化プラン」の問題
～政府・総務省の真の狙いは、地方公務員削減=非公務員型地方独立行政法人化や指定管理者運営へ経営移譲。
- ・今こそ、地域医療を守り充実させる地域運動を！

②「都立病院の独法化について」(都立病院の充実を求める連絡会—渡辺さん)



・都立病院は都民のいのちと健康を守る砦—「社会的弱者にその時代の最高の医療を提供してきた」と自負。相次ぐ行革、とりわけ石原都政で都立病院は半減、小池都政で、遂に「独法化」という荒療治を強行しようとしている。

・コロナ禍で、都民のいのちを守る砦として都立病院が重要な役割果たしてきた。しかし、小池知事は、増員もしないで次々と受け入れ病院を増設。長年の都立病院での医療の蓄積があったからこそ対応できた。

・「独法化」強行されても、都立病院の役割は変わらない！引きつづき運動を強化していきたい！



③「コロナ受け入れ対応と公立・公的病院」

(名古屋市立大学附属東部医療センター—大野さん)

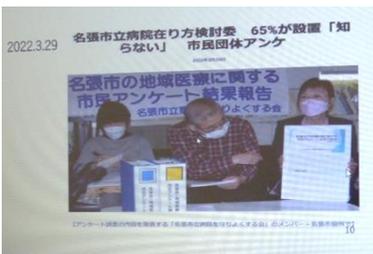
・東部医療センターは名古屋市内唯一の「感染症指定病床」が整備され役割を担ってきた。コロナ禍では、さらに受け入れ病床を拡大し対応してきた。

それが、市民が望む公立病院の役割だと認識している。市民の期待に応えられる病院体制の整備をさらに進めてほしい。

・名古屋市立病院は、再編統合を経て、新病院も名古屋市立大学附属病院化され、さらに2つの病院も市立大学附属病院化計画が進んでいる。先に結論ありきで、様々な問題・課題の整理は後回しで、未だに旧市立病院と大学病院の賃金・労働条件も統一されていない。職員も地方公務員のまま大学附属病院へ出向という扱いの職員もいます。



④「名張市の地域医療アンケート」(みえ自治労連—新家さん)



・人口8万人弱の名張市で、アンケート8千枚を配布し1,703通(回収率21%)も回答が寄せられた。地域医療、市民病院に関する関心と期待が高いことが明らかとなった。「名張市立病院を守りよくする会」を地域労連・住民団体等で結成し取り組んだ成果。



⑤「北設楽郡の医療を守る住民運動」(東栄町議—浅尾さん)

東栄町の医療は、東栄病院が廃止され、無償診療所へと地域医療は大きく後退。これまでに町の医療を守れと「透析存続請願署名」「直接請求署名」「町長リコール署名」と3つの大きな署名に取り組んできたが、いづれも議会で否決、町長は辞職—出直し選挙となり、住民団体立候補者が208票まで迫ったが、町長が再選され、医療縮小がさらに進む！現在は、町長に賠償を求める「住民訴訟」を起こし闘っている！「へき地医療」を守るためには、首長の姿勢・政治信念が大きく左右し、それに愛知県がどの様に支援するかが課題で、県はなにも具体化せず、責任放棄している！

*分科会では、基調報告と4つの指定報告を受け、質問や感想を出し合い内容を深めました。